
PHP

4 時間目

if文（判定）とは

If文とは、「もし○○○なら、×××と処理しなさい」という命令をするプログラミング

if文活用例)

新規でSNSに登録する時に、ID登録をします。

そのIDが既に他者に使われているIDであれば、



「もし、○○○なら」の部分

「このIDは既に使用されているので別のIDを登録して下さい」と表示する。



「×××と処理しなさい」の部分

TRUEとFALSE

「もし○○○なら」の条件にマッチした場合
→ **TRUE（トゥルー）** と言う

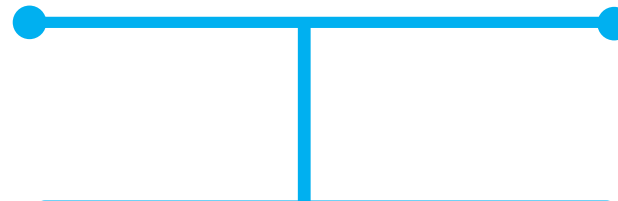
「もし○○○なら」の条件にマッチしない場合
→ **FALSE（フォルス）** と言う

if文（判定）の書き方

if (条件) {処理内容;}



「もし、○○○なら」の部分



「×××と処理しなさい」の部分

例) もし、“ある数”(\$a)が10より大きい場合は、Aと表示する

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 15;  
if($a > 10){  
echo "A";}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

A

例) もし、“ある数”(\$a)が10未満だった場合は、Bと表示する

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 7;  
if($a < 10){  
echo "B";}
```

```
?>
```



B

覚えておきたい比較演算

比較演算	解説
<code>\$a > \$b</code>	<code>\$a</code> は、 <code>\$b</code> より大きい
<code>\$a < \$b</code>	<code>\$a</code> は、 <code>\$b</code> より小さい（未満）
<code>\$a >= \$b</code>	<code>\$a</code> は、 <code>\$b</code> 以上
<code>\$a <= \$b</code>	<code>\$a</code> は、 <code>\$b</code> 以下
<code>\$a == \$b</code>	<code>\$a</code> と <code>\$b</code> は等しい（等価演算子） ※=と==を間違えないように注意 変数の代入では、「=」を使い、値を比較演算するには「==」を使います。
<code>\$a != \$b</code>	<code>\$a</code> と <code>\$b</code> は等しくない
<code>\$a <> \$b</code>	<code>\$a</code> と <code>\$b</code> は等しくない

例) もし、“ある数”(\$a)が10以上の場合は、Aと表示する

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 20;  
if($a >= 10){  
echo "A";}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

A

例) もし、“ある数”(\$a)が10と等しい場合は、Aと表示する

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 10;  
if($a == 10){  
echo "A";}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

A

例) もし、“ある数”(\$a)が10と等しくない場合は、Aと表示する

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 15;  
if($a != 10){  
echo "A";}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

A

もし〇〇〇なら・・・X X X と処理しないさい。
この条件にマッチしない場合 (=falseの場合) で、
もし△△△なら・・・□□□ と処理しなさい。

→ **elseif (エルスイフ)** を使用

elseifの書き方

```
if (条件1) {処理内容;}
```

「もし、○○○なら」の部分

```
elseif(条件2) {処理内容;}
```

「もし、×××なら」の部分

「×××と処理しなさい」の部分

「□□□と処理しなさい」の部分

例) もし、“ある数”(\$a)が10より大きい場合は、Aと表示する。
そうでない場合で“ある数”(\$a)が10未満の場合は、Bと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 20;  
if($a > 10){  
    echo "A";  
elseif($a < 10){  
    echo "B";  
}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

A

例) もし、“ある数”(\$a)が10より大きい場合は、Aと表示する。
そうでない場合で“ある数”(\$a)が10未満の場合は、Bと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 5;  
if($a > 10){  
    echo "A";}  
elseif($a < 10){  
    echo "B";}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

B

もし〇〇〇なら・・・X X X と処理しないさい。
それ以外の場合 (=falseの場合)
□□□ と処理しなさい。

→ **else (エルスイフ)** を使用

elseの書き方

if (条件) {処理内容;}

「もし、○○○なら」の部分

else {処理内容;}

「×××と処理しなさい」の部分

「□□□と処理しなさい」の部分

例) もし、“ある数”(\$a)が10より大きい場合は、Aと表示する。
そうでない場合は、Zと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 20;  
if($a > 10){  
    echo "A";}  
else{echo "Z";}
```

```
?>
```

← → ↺ 🏠

A

例) もし、“ある数”(\$a)が10より大きい場合は、Aと表示する。
そうでない場合は、Zと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php
```

```
$a = 10;  
if($a > 10){  
    echo "A";}  
else{echo "Z";}
```

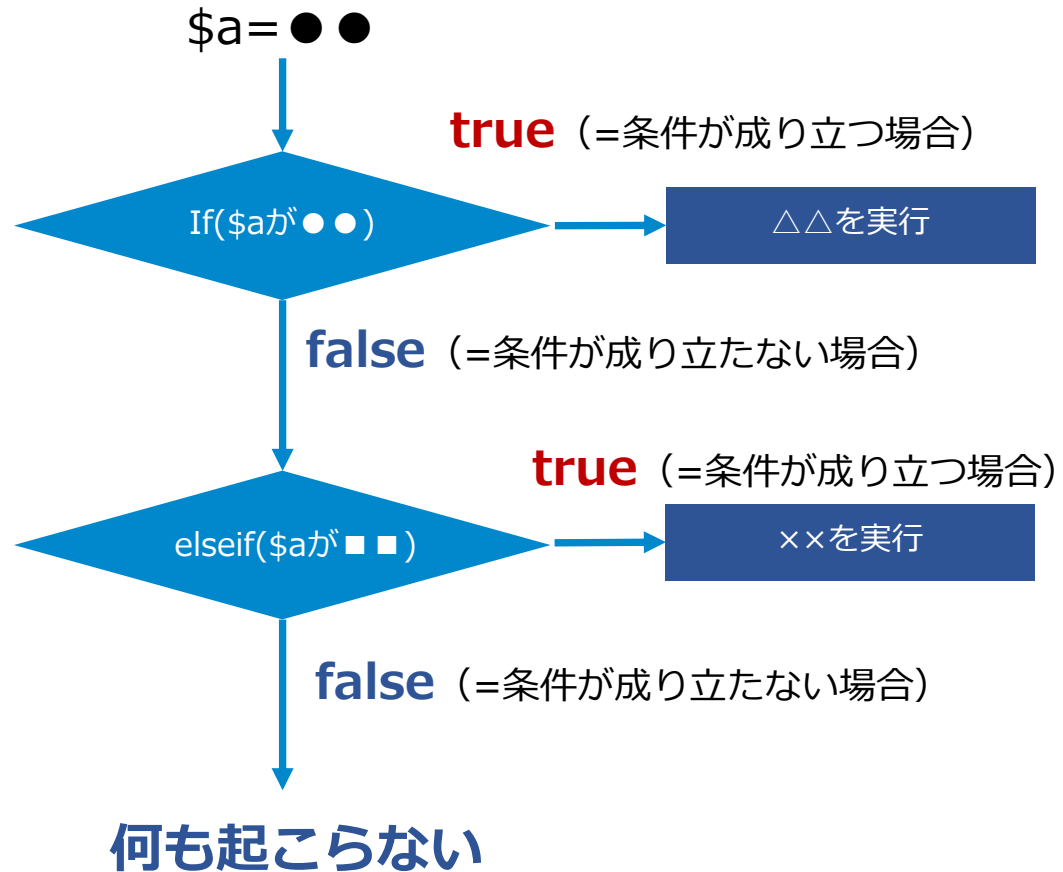
```
?>
```

← → ↺ 🏠

Z

else vs elseif

elseif文の構造



else文の構造

